

① 申請者	姫路市、福崎町、市川町、 神河町、◎朝来市、養父市	② タイプ	地域型 / シリアル型 A B C D E
-------	------------------------------	-------	--------------------------

③ タイトル

播但貫く、銀の馬車道 鉱石の道
～ 資源大国日本の記憶をたどる 73km の轍 ～

④ ストーリーの概要 (200字程度)

兵庫県中央部の播但地域。そこに姫路・飾磨港から生野鉱山へと南北一直線に貫く道があります、“銀の馬車道”です。さらに明延鉱山、中瀬鉱山へと“鉱石の道”が続きます。わが国屈指の鉱山群をめざす全長 73km のこの道は、明治の面影を残す宿場町を経て鉱山まちへ、さらに歩を進めると各鉱山の静謐とした坑道にたどり着きます。

近代化の始発点にして、この道の終着点となる鉱山群へと向かう旅は、鉱山まちが放ついぶし銀の景観と生活の今昔に触れることができ、鉱物資源大国日本の記憶へといざないます。




⑤ 担当者連絡先

担当者氏名			
電 話		FAX	
E-mail			
住 所			

市町村の位置図（地図等）



 = 当該市町の位置

播但地域：

兵庫県の県央部に位置する。姫路から市川沿いに伸びる JR 播但線沿いの地域を指す。

構成文化財の位置図（地図等）



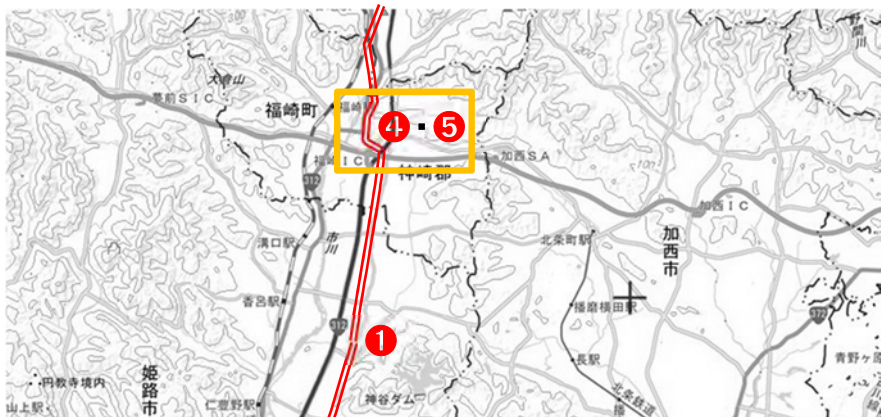
①飾磨 (姫路市)



- ①生野鉦山寮馬車道
(銀の馬車道)
- ②飾磨津物揚場跡
- ③馬車道修築碑



②辻川 (福崎町)



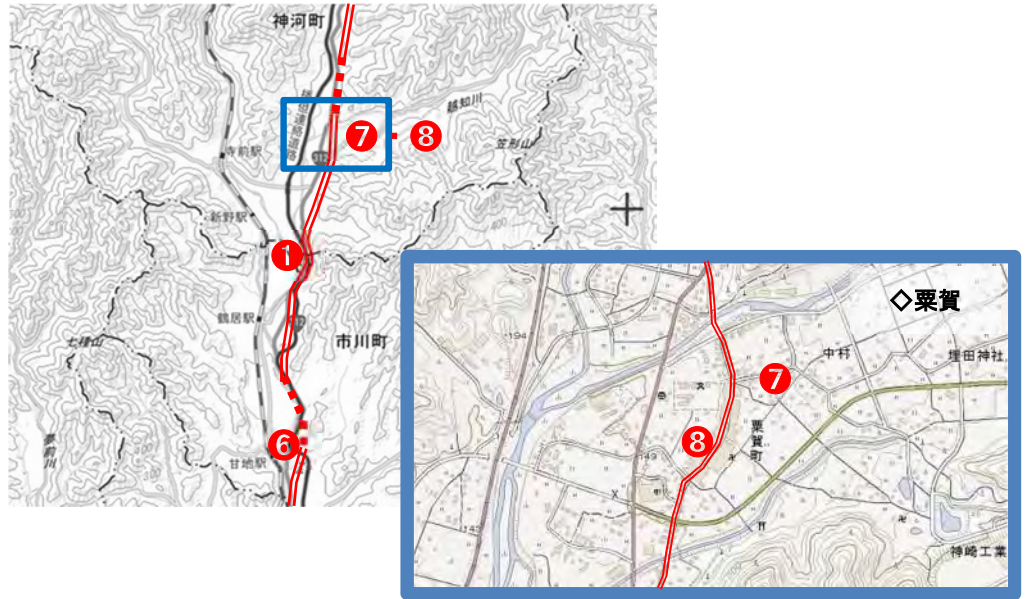
- ①生野鉦山寮馬車道
(銀の馬車道)
- ④辻川町
- ⑤三木家住宅



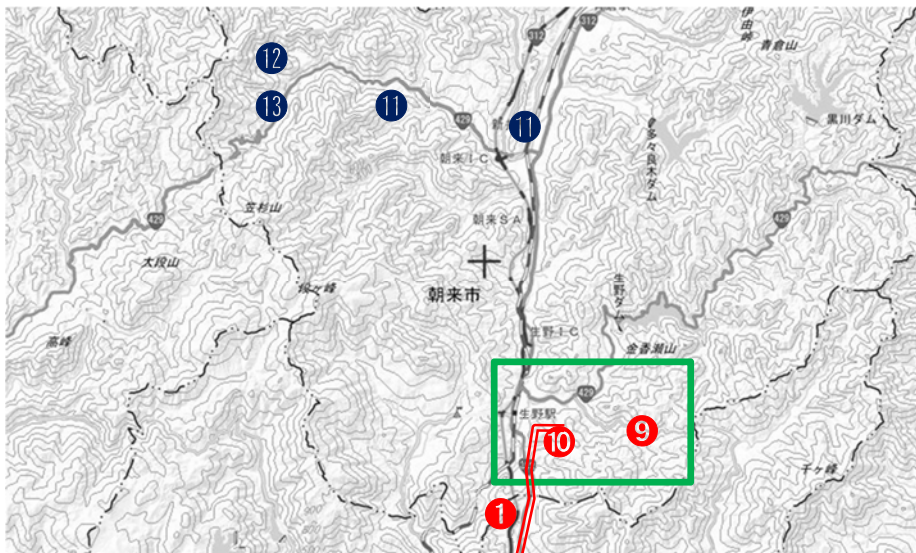
- ④辻川町
- ⑤三木家住宅

③屋形・栗賀（市川町・神河町）

- ①生野鉱山寮馬車道
（銀の馬車道）
- ⑥屋形町
- ⑦栗賀町
- ⑧竹内家住宅

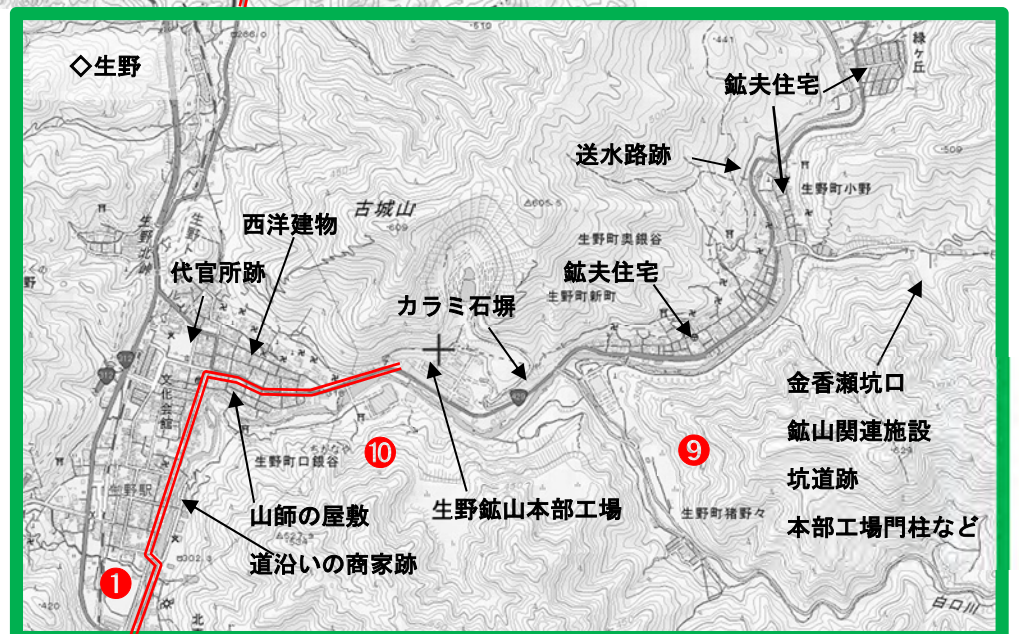


④生野・神子畑（朝来市）



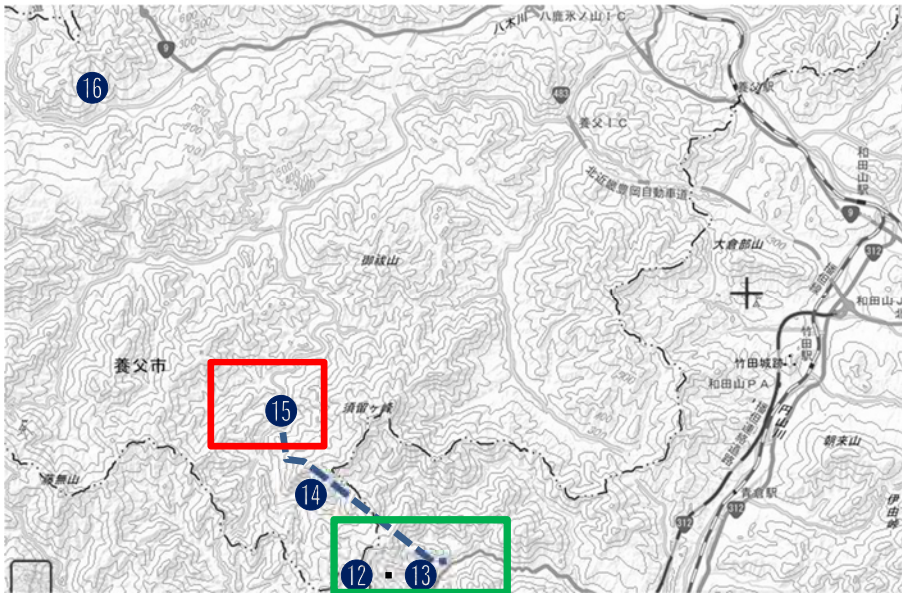
- ①生野鉱山寮馬車道
（銀の馬車道）
- ⑨生野鉱山関連遺構
- ⑩生野鉱山町
- ⑪神子畑鑄鉄橋（左）
羽淵鑄鉄橋（右）
- ⑫神子畑選鉱場跡
- ⑬旧神子畑鉱山事務舎
（△一セ旧居）

- ①生野鉱山寮馬車道
（銀の馬車道）
- ⑨生野鉱山関連遺構
- ⑩生野鉱山町



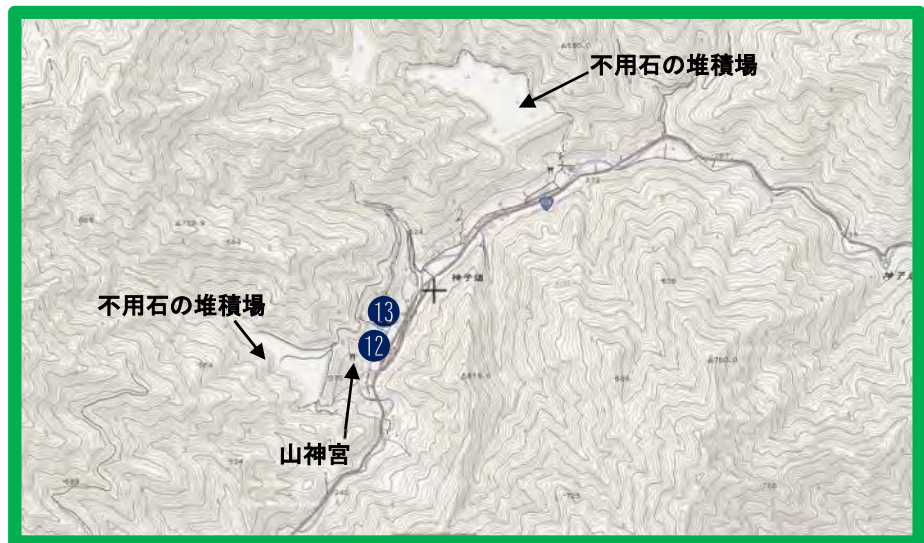
⑤明延・中瀬（養父市）

⑮明延鉱山関連遺構、明延鉱山町



- ⑫神子畑選鉱場跡
- ⑬旧神子畑鉱山事務舎
(ム一セ旧居)
- ⑭明延鉱山明神電車
- ⑮明延鉱山関連遺構、
明延鉱山町
- ⑯中瀬鉱山関連遺構
中瀬鉱山町

◇神子畑



- ⑫神子畑選鉱場跡
- ⑬旧神子畑鉱山事務舎
(ム一セ旧居)

ストーリー

■ 鉱山が生んだ南北 73km の道

兵庫県の中央部播但（播磨と但馬）地域を南北に貫く、一本の道があります。飾磨港から生野、さらに中瀬に連なる全長73km のこの道は、鉱産物、採掘・製錬に必要な資材、生活物資を届ける馬車が盛んに行き交いました。

飾磨港から道をたどると、鉱山と共生した宿場町や町家が次々と現れ、経営拠点が置かれた生野には今も稼働する金属工場から操業の音と製錬の匂いが放たれ「鉱山まち」の活気を感じることができます。道は生野から北へとつづき、神子畑・明延・中瀬の鉱山にいたります。想像を絶するほどに地中深く掘られた坑道からは、金・銀・銅を求めた鉱夫たちの息遣いが聞こえてきそうです。

■ 瀬戸内の港町から、“銀の馬車道”をゆく

日本初の高速産業道路と言われる“銀の馬車道”は、明治9年播磨の飾磨港（現姫路港）と49km 北の生野鉱山とを結ぶために造られました。建設ルートは最短・平坦を選び取り、重い鉱石に耐え得る画期的な構造を持った馬車専用道でした。

起点となる飾磨港周辺には、生野産のレンガで作られた倉庫「飾磨津物揚場」跡や港湾護岸が残り、馬車道のたたずまいが受け継がれ、その後まさしく真一文字に姫路城に向かいます。

姫路の街を抜け一路北へと進みます。道は田園のなかゆるやかに続き、しばしば趣のある古民家が点在する町並みが現れてきます。それは福崎町辻川、市川町屋形、神河町栗賀の宿場町として栄えた町並みです。辻川には姫路藩の大庄屋を務めた「三木家」、栗賀には毒消しとして盛んに飲まれた仙霊茶を製造・販売したお茶問屋「竹内家」など地域のシンボリックな町家が残り、往時のにぎわいを彷彿とさせます。

■ 日本の近代化における原点、「銀のまちー生野」

“銀の馬車道”の一区間が現存する神河町を過ぎ、播但の境をなす生野峠を越えると、清流市川に沿って集落が開けてきます。そこは播磨と但馬を結ぶ交通の要衝であり、開坑から1200年の歴史を誇るかつて“佐渡の金・生野の銀”と言われた全国屈指の鉱山まち生野の町です。赤みがかった生野瓦の屋根、格子に意匠を凝らした町家、鉱物製錬後の不用物を石状に固め石垣・土台に使うなど、鉱山まち独特の景観をとどめる口銀谷地区を抜けると、生野鉱山本部の置かれた工場に到着します。

明治政府は、近代化を先導する模範鉱山として、ここ生野を西洋の技術を導入した日本初の官営鉱山としました。



飾磨港の飾磨津物揚場跡



宿場町(栗賀町)を通る銀の馬車道



生野鉱山町のたたずまい

動力の機械化、火薬による採掘、耐えられる坑道、水銀を使った製錬など、全ての技術が当時の日本人が初めて出会う体験でした。この時造られた鉱山本部は、140年を経て今もなお錫製錬工場として稼働し続けており、活きた音・匂いが鉱山まちであることを強く感じさせます。と同時に明治時代の「西洋技術による鉱山の近代化」を短期間に成し遂げた背景には、現代のものづくりにも通じる営々と築き上げてきた人力主体の手工業的な生産システムが礎としてあったことを気付かせます。

またハード資産だけではなく、鉱夫の滋養のためにと栽培され、今や日本三大ねぎのひとつ「岩津ねぎ」といった鉱山に由来を持つ農産物があり、生活に鉱山の影響がうかがえます。

■ 近代化を牽引した軌跡、“鉱石の道”をゆく

生野から分水嶺を越え北へ24kmとつづく“鉱石の道”、“銅の神子畑・明延、金の中瀬”へと歩を進めます。風格ある日本最古の全鑄鉄製の橋を過ぎ、東洋一の規模を誇った神子畑の鉱石の選鉱場に行き着きます。さらにその先は明延鉱山。総延長550kmにもおよぶ坑道から鉱石を運び出すトロック軌道をめぐらせ、地下1,000mの奥底へとつながっています。暗く冷涼な坑道に足を踏み入れると、岩肌に残る生々しい掘り痕と地下から伝わる冷気で、異空間にいる緊張が高まってきます。町には、共同浴場跡や映画館跡が残り、厳しい暮らしの中での安堵と疲れを癒した様子を感じることができます。

また神子畑と明延間には、鉱石と人を運んだ「明神電車」が走っていました。この電車は一円の運賃だったことから「一元電車」と親しまれ、今に姿を残しています。

飾磨港と生野・神子畑・明延・中瀬の鉱山群を結ぶ“銀の馬車道 鉱石の道”は、明治時代に出現した生産から輸送・物流に及ぶ「海と山を結ぶ鉱業コンビナート」でした。この道には、多く・速く・遠く運ぶための思想と先端技術が詰め込まれ、近代化に舵を切った鉱山経営の仕組みがほぼ完全に残されており、その姿は現在の暮らしを支える「ものづくり」の始まりの様子を示しています。

播但貫く73kmの轍をたどることは、鉱物資源大国たらしめ近代化を推し進めた先人の国際性と革新の気質に触れることであり、金・銀・銅を求め行き交った多様な人の交流から生まれた多彩な生活に出会うこと。そしてこれらが、脈々と現代に連なり強く息づいていることを体感する旅と言えます。



明治の製錬関連施設



生野鉱山の坑道



岩津ねぎ畑



神子畑鑄鉄橋



明延鉱山(一元電車軌道跡)

ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所在地 (※4)
①	いくのこうざんりょう 生野鉱山寮 ばしやみち 馬車道跡	未指定	生野・姫路間 49km を最短で結ぶ日本初の産業専用道路として、明治9年(1876)に完成。「銀の馬車道」として親しまれている。	朝来市・神河町・市川町・福崎町・姫路市
②	しかまつものあげばあと 飾磨津物揚場跡	未指定	銀の馬車道の発着点で、生野鉱山の物資を専用に扱う貨物港。馬車道に伴って造られ、レンガ製倉庫や港湾護岸が残る。	姫路市
③	ばしやみちしゅうちくひ 馬車道修築碑	未指定	明治9年(1876)の銀の馬車道完成を記念して建てられた。道を造る経緯や意義、経過が記され、困難であった工事の様子が克明にわかる。	姫路市
④	つじかわまち 辻川町	未指定	銀の馬車道沿いにある宿場町。東西南北の街道が交差する地点で、馬車道の物資中継の拠点となった。	福崎町
⑤	みきけじゅうたく 三木家住宅	県有形	辻川町を治めた大庄屋の屋敷跡。江戸時代中～末期に造られたが、銀の馬車道建設にあたって宿場町の中央を道が通るようになり、屋敷地の一部を供出した。	福崎町
⑥	やかたまち 屋形町	未指定	銀の馬車道沿いの宿場町。江戸時代からの宿場町で、当初計画では馬車道のルートからは外れていたが、嘆願書を提出して道が通った。	市川町
⑦	あわがまち 栗賀町	未指定	銀の馬車道沿いの宿場町。生野の玄関口として、鉱山で必要な物資を揃える搬入基地の役割を担った。	神河町
⑧	たけうちけじゅうたく 竹内家住宅	未指定	栗賀町にあるお茶問屋の邸宅跡。日本茶は生野で需要が高く、製造販売した「仙霊茶」は良質の茶として広く知られた。	神河町
⑨	いくのこうざんかんれんいこう 生野鉱山関連遺構 (生野鉱山及び鉱山町の文化的景観)	国選定重要 文化的景観	明治元年に政府の直轄となり、最新技術が投入された日本の近代鉱山第1号。 銀の馬車道の終着点で、近代化に伴う資産がまちのあちこちに残り、明治に造られた製錬工場が現役で稼働している。	朝来市

⑩	いくのこうざんまち 生野鉱山町 (生野鉱山及び鉱山 町の文化的景観)	国選定重要 文化的景観	採掘に関連する役人や商人、鉱夫が生活 した鉱山町。屋根に生野で作られた赤瓦を 葺き、基礎や塀に製錬後の不用物を方形に 固めた「カラミ石」を用いた建物が、独特 の風景を形成している。	朝来市
⑪	みこばちゆうてつきょう 神子畑 鑄鉄橋 はぶちゆうてつきょう ・羽淵 鑄鉄橋	国重文 (有形) 県有形	生野と神子畑鉱山を結ぶ鉱石の道に架 けられた鉄橋。神子畑鑄鉄橋は全鑄鉄製の 橋梁として日本最古。羽淵鑄鉄橋は二連ア ーチ橋で、神子畑鑄鉄橋と様相が異なる。	朝来市
⑫	みこばたせんこうじょう 神子畑選鉱場跡	未指定	もとは鉱山で、大正 6 年(1917)からは、 明延の鉱石を選別する施設が置かれた。斜 面を利用して流れ作業で選別した。	朝来市
⑬	きゅうみこばたこうざんじむしや 旧神子畑鉱山事務舎 (ムーセ旧居)	県有形	生野鉱山に招かれた外国人技師の官舎 として建てられ、その後神子畑に移築さ れ、鉱山事務所として利用された。	朝来市
⑭	あけのべこうざんめいしんでんしゃ 明延鉱山明神電車	県有形	明延鉱山と神子畑を結ぶ鉱山鉄道。昭和 20 年(1945)から客車が運行され、運賃 から「一円電車」の愛称で有名になった。	朝来市・養 父市
⑮	あけのべこうざんかんれんいこう 明延鉱山関連遺構 あけのべこうざんまち ・明延鉱山町	未指定	錫・銀・銅を採掘した鉱山で、採掘を休 止している今も、盛んな採掘で掘られた坑 道跡が多数残る。 ふもとはには鉱夫社宅、銭湯跡、映画館跡 など鉱山関係者の暮らした町並みが残る。	養父市
⑯	なかぜこうざんかんれんいこう 中瀬鉱山関連遺構 こうざんまち ・中瀬鉱山町	未指定	西日本最大の金山。明治時代、生野鉱山 とともに官営化され、現在も鉱山関連の工 場が稼働し、鉱山に関わる町並みが残る。	養父市

- (※ 1) 文化財の名称には適宜振り仮名を付けること。
- (※ 2) 指定・未指定の別、文化財の分類を記載すること(例：国史跡、国重文(工芸品)、県史跡、県有形、市無形等)。
- (※ 3) 各構成文化財について、ストーリーとの関連を簡潔に記載すること(単に文化財の説明にならないように注意すること)。
- (※ 4) ストーリーのタイプがシリアル型の場合のみ、市町村名を記載すること(複数の都道府県にまたがる場合は都道府県名もあわせて記載すること)。

構成文化財の写真一覧①



① 生野鉦山寮馬車道跡 (姫路市)



① 生野鉦山寮馬車道跡 (神河町)



② 飾磨津物揚場跡 (レンガ建物)



③ 馬車道修築碑



④ 辻川町



⑤ 三木家住宅

構成文化財の写真一覧②



⑥屋形町



⑦粟賀町



⑧竹内家住宅



⑨生野鉱山関連遺構（生野鉱山正門門柱）



⑨生野鉱山関連遺構（トロッコ道）



⑨生野鉱山関連遺構（金香瀬坑口）

構成文化財の写真一覧③



⑨生野鉱山関連遺構（鉱山本部全景）



⑩生野鉱山町（カラミ石の石垣）



⑩生野鉱山町（西洋建築の旧生野警察署）

構成文化財の写真一覧④



⑪ 神子畑鑄鉄橋



⑪ 羽淵鑄鉄橋



⑫ 神子畑選鉱場跡



⑬ 旧神子畑鉱山事務舎（ムーセ旧居）



⑭ 明延鉱山明神電車（客車くろがね号）



⑮ 明延鉱山関連遺構（体験坑道）



⑮ 明延鉱山町（北星社宅）



⑯ 中瀬鉱山関連遺構（坑道の入り口）

日本遺産を通じた地域活性化計画

認定番号	日本遺産のタイトル
45	播但貫く、銀の馬車道 鉱石の道 ～ 資源大国日本の記憶をたどる 73km の轍 ～

(1) 将来像 (ビジョン)

明治産業の近代化を牽引してきた鉱山業、その中核を占めた兵庫県但馬地域の鉱山群。この鉱山群は必然的に兵庫県播磨地域の飾磨港へ向かう「道」を求め、生まれた道が播但貫く「銀の馬車道 鉱石の道」。

多くの人、物資が行き交い、交流が生まれる中で、ここにしかない文化が育まれ、先人から今に、大切に受け継がれている。これらの記憶を見つめながら、資源の魅力の再発見に努め、地元住民が地域の宝として誇りに感じられるよう、次世代に継承していく。

まず、日本遺産沿線の観光スポット等の拠点の整備、歴史的な資料の整理活用等を行うことで、ヘリテージとしてのレベルアップを図るとともに、地域住民への日本遺産ストーリーや構成文化財等への理解を通じて、地域への愛着や誇りの醸成を図ることで、地域住民が地元の歴史を知り、地域資源を知り、誇りを持つことで、資源の魅力は一層磨かれ、輝きは増す。

次に、今後の観光需要の高まりを見込み、地域の魅力や歴史を熟知した人材が必要とされることから、観光客などの来訪者に対し、日本遺産ストーリーを語れる地域観光の担い手育成を図るとともに、日本遺産沿線地域のイメージ、魅力等を高める取組や、資源を活用したイベント等を企画する。併せて、兵庫県内、近畿地方をはじめ、全国、海外に広く発信することにより、今以上の来訪者を招き、来訪者が、播但地域の歴史、文化、自然、施設、伝統技術等の様々な地域固有の資源を活用した「ここだけ」の体験・体感により、リピート来訪者の増加及び新たなファン層の拡大を図る。また、来訪者増加により、民間事業者による宿泊・飲食・土産など来訪者の満足度を高める受入体制の整備が促進されることにより、地域や地域経済の振興につなげる。

さらに、日本遺産エリアだけの取組ではなく、日本初の「世界文化遺産」となった姫路城、さらには断層から湧き出る城崎温泉、大地の遺産を有する山陰海岸ジオパークを結ぶ広域観光ルートを形成し、周辺エリアとともに来訪者を呼び、周遊させ、受け入れることで、各エリア一体となった「面」での経済効果を生み出す。

その実現に向けて、日本遺産地域の行政、民間事業者、地域住民それぞれが一体となって、他の観光コンテンツ地域と連携し、広域的な視点からの来訪者の増加を図り、周辺地域とともに発展、飛躍を目指す。

【兵庫県・構成6市町の各種計画における日本遺産の位置づけ】

兵庫県と構成6市町（姫路市、福崎町、市川町、神河町、朝来市、養父市）では、それぞれ構成文化財を観光振興や地域振興の資産とし、認定エリア全体で連携して日本遺産を活用した取組を行うために日本遺産推進協議会を組織し、その運営に参画している。各総

合計画において、地域資源である日本遺産及び日本遺産の構成文化財を、観光資源や文化資源として活用するとともに、良さを再確認しつつ新たな魅力を発見し、さらに発展させ次世代につなげる内容を明記している。

□兵庫県中播磨地域ビジョン（2021 年度作成）

- ・作成主体：兵庫県中播磨県民センター
- ・位置づけ：将来像 多様な人が行き交う「交流」中播磨
行動目標 姫路城に続け！地域資源を磨く

□兵庫県但馬地域ビジョン（2021 年度作成）

- ・作成主体：兵庫県但馬県民局
- ・位置づけ：将来像 世界に誇る魅力を継承し、世界に輝く新たな魅力を創造する地域
視点 豊かな自然・食など但馬の魅力強化と次代への継承

□姫路市総合計画 ふるさと・ひめじプラン 2030（2020 年度作成）

- ・作成主体：姫路市
- ・位置づけ：目指す都市像 とともに生き とともに輝く にぎわい交流拠点都市 姫路
目指す姿 姫路城をはじめとした文化財や、地域に伝わる伝統行事など、
多彩な歴史文化遺産が保存・継承されるとともに、歴史文化遺産
を活用する環境が整っている。

□福崎町第 5 次総合計画（2016 年度作成）

- ・作成主体：福崎町
- ・位置づけ：将来像 多くの住民が誇りと愛着をもって、保存継承活動に参加する
視点 保全活用核である辻川界隈の地域資源の有効活用

□市川町総合計画後期基本計画（2020 年度作成）

- ・作成主体：市川町
- ・位置づけ：将来像 住民の絆を大切に、元気で輝き誇れる“いちかわ”
基本施策 まちづくり計画の推進

□第 2 期神河町地域創生総合戦略（2020 年度作成）

- ・作成主体：神河町
- ・位置づけ：基本目標①「豊かな自然を活かし、安定したしごとを創造する」
アクションプラン「歴史文化資源（文化財等）の活用」

□第 3 次朝来市総合計画（2021 年度作成）

- ・作成主体：朝来市
- ・位置づけ：ありたいまちの姿 2
人と自然が共生しながら地域で循環する産業を確立する
6. 地域の誇りとなる歴史文化遺産の保存・活用

□養父市まちづくり計画（2021 年度作成）

- ・作成主体：養父市
- ・位置づけ：構想 豊かな自然や環境への配慮と文化・伝統の「分かち合い」を感じる
空間
基本的な施策 多彩な人々によって創出される地域資源

□養父市景観計画（2017 年度作成）

・作成主体：養父市

・位置づけ：目的 良好な景観の保全とまちづくり活動への活用推進、新たな魅力の発掘と創造によりまちのにぎわい創出の取組を展開する「景観まちづくり」の推進

基本理念 見つけよう 育てよう 活かそう 身近な暮らしの中にある
「養父市らしい景観」～みんなで取り組む景観まちづくり～

(2) 地域活性化計画における目標

目標①：地域住民や国内外からの来訪者が日本遺産のストーリーに触れ、その魅力を体験すること

指標①-A：日本遺産のストーリーを体験した来訪者の数

年度	実績			目標		
	2020	2021	2022	2023	2024	2025
数値	604,361人	624,351人	640,441人 (1月末)	789,000人	812,000人	836,000人
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	日本遺産関連施設、各構成文化財等の来訪者数。目標値は2019年度の値(766,360人)を基準とし、日本遺産「播但貫く、銀の馬車道 鉱石の道」基本戦略に基づき設定。					

目標①：地域住民や国内外からの来訪者が日本遺産のストーリーに触れ、その魅力を体験すること

指標①-B：日本遺産のストーリーについて理解・関心を深めた人の数

年度	実績			目標		
	2020	2021	2022	2023	2024	2025
数値	7,849人	20,207人	61,988人 (1月末)	57,600人	59,300人	61,000人
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	日本遺産関連コンテンツ等を体験した人数。目標値は2019年度の値(55,956人)を基準とし、毎年約3%増を見込。					

目標②：地域において日本遺産のストーリーが誇りに思われること

指標②-A：地域住民が日本遺産を誇りに思う割合

年度	実績			目標		
	2020	2021	2022	2023	2024	2025
数値	64.8%	63.4%	47.1%	67%	70%	73%
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	2022年までは「兵庫のゆたかさ指標」(お住まいの市・町には、自慢したい地域の「宝」(風景や産物、文化など)があると思う人の割合)を記載。2023年度からは独自のアンケート調査にて把握する。目標値は2020年度の値を基準とし、毎年約3%増を見込。					

目標③：日本遺産を活用した事業により、経済効果が生じること						
指標③－A：日本遺産関連商品等の販売額						
年度	実績			目標		
	2020	2021	2022	2023	2024	2025
数値	108,129 千円	115,703 千円	117,622 千円 (1月末)	134,400 千円	141,100 千円	148,100 千円
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	日本遺産関連の商品等の販売額の集計。目標値は 2019 年度の値 (128,058 千円) を基準とし、毎年約 5 % 増を見込。					

目標④：日本遺産のストーリー・構成文化財の持続的な保存・活用が行われること						
指標④－A：公開活用されている（入場や見学等ができる）構成文化財の割合						
年度	実績			目標		
	2020	2021	2022	2023	2024	2025
数値	100%	100%	100%	100%	100%	100%
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	構成文化財の状況を詳細に把握する。 目標値は 2022 年度を基準とし現状維持を図る。					

目標⑤：地域への経済効果も含め広く波及効果が生じること						
指標⑤－A：一人あたり観光 GDP						
年度	実績			目標		
	2020	2021	2022	2023	2024	2025
数値	3.18 百万円/人	3.77 百万円/人	集計中	4.14 百万円/人	4.55 百万円/人	5.00 百万円/人
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	兵庫県観光客動態調査における観光 GDP を宿泊業・飲食サービス業就業者数で割った数値。目標値は 2021 年度の数値を基準とし、毎年約 1 % 増を見込。					

(3) 地域活性化のための取組の概要

○地域活性化のための取組について

日本遺産「播但貫く、銀の馬車道 鉱石の道」は兵庫県を南北に貫く播但エリアの姫路市、福崎町、市川町、神河町、朝来市、養父市の6市町にまたがるストーリーである。兵庫県北部の鉱山エリアと物資の集積地である姫路飾磨港は銀の馬車道・鉱石の道によって結ばれ、鉱山で採掘された鉱物資源、鉱山で消費される多量の物資が行き交い、沿線には宿場町が栄えた。現在も朝来市生野町や養父市中瀬では鉱山施設が稼働し、但馬地域には鉱山に関わる多くの産業遺産が遺されている。但馬の生野鉱山と播磨の飾磨港を結んだ銀の馬車道は現在、国道312号、JR播但線として受け継がれ、現在沿線に暮らす人々の生活・経済に大きな影響を与えている。

日本遺産「播但貫く、銀の馬車道 鉱石の道」を活用した地域活性化は、兵庫県や沿線の自治体を中心となって組織する日本遺産「銀の馬車道・鉱石の道」推進協議会、銀の馬車道ネットワーク協議会、鉱石の道推進協議会により、沿線73kmを結ぶ取組を進めている。

全ての構成市町の全中学1年生への学習教材となる副読本等の配付や、全ての構成市町の地元高校生を対象としたワークショップを実施し、日本遺産を活用した事業提案を行ない、若い世代のアイデアを掘り起こし、地域愛の醸成に繋げている。特に高校生ワークショップでは、地域の若者世代の日本遺産への興味を引き出しつつ、多くの高校生が参加することで新しい繋がりの場となる相乗効果も生み出している。

JR播但線を「銀の馬車道・鉱石の道」に見立て、沿線の歴史的背景や食文化を発信する臨時列車サイクルトレインの運行では、構成市町を列車と自転車を利用して周遊することにより、地域外からの誘客増加、地域間の周遊促進に繋げており、特に休憩所等での地域団体によるおもてなしによる地域愛醸成や、構成市町名物の食の提供が民間事業者への収益に繋がるなどの相乗効果も生み出している。

日本遺産の4つの鉱山エリアで活動する人々を中心にガイド研修などの研修会や交流会を実施し、相互理解を深め、より強力な連携体制の構築に取り組んできた。特にそれぞれの活動領域を超えた質の高いガイドや近隣の構成文化財への誘導に結実する相乗効果も生み出している。

また、日本遺産の構成文化財をもつ各自治体や沿線地域の個人・団体・民間事業者が参画して多彩な取組を進めている。

日本遺産「播但貫く、銀の馬車道 鉱石の道」のストーリーの始発点である姫路市姫路港（飾磨津物揚場跡）では日本遺産「播但貫く、銀の馬車道 鉱石の道」のガイダンス施設として姫路みなとミュージアムを整備し、さらに「銀の馬車道修築」碑がある銀の馬車道修築碑ミニパーク内に馬車モニュメントを設置することで、日本遺産ストーリーを一層理解できる場となるよう整備を行った。

福崎町の辻川町では、多くの来訪者が銀の馬車道の歴史を感じることができるよう、構成文化財である大庄屋三木家住宅を宿泊施設として整備し、観光交流センターを設置、さらには馬車模型と馬車道が開通した時代に活躍した地域の先人である民俗学者柳田國男ゆかりの妖怪たちのオブジェと一緒に設置するなど、日本遺産を観光につなげる取組を展開している。

市川町では播但鉄道敷設に尽力した内藤利八を顕彰するとともに、銀の馬車道をモチー

フとした複合遊具を設置する銀の馬車道沿線公園を整備して地域の人々の銀の馬車道、そして日本遺産「播但貫く、銀の馬車道 鉱石の道」への愛情を醸成するための取組を進めている。

神河町では日本遺産認定の平成 29 年に国道 312 号で初となる道の駅「銀の馬車道・神河」がオープンした。近隣には「現存する」生野鉱山寮馬車道があり、日本遺産「播但貫く、銀の馬車道 鉱石の道」を PR する拠点施設のひとつとなっている。また、中村・粟賀町は兵庫県の景観形成地区として良好な景観が保たれており、銀の馬車道交流館や古民家を活用した飲食店を整備するなど日本遺産の宿場町の景観を地域の賑わいにつなぐ取組を進めている。

朝来市では生野地域・朝来地域を中心に現在に遺る多くの鉱山に関わる産業遺産を観光や地域の活性化に活かす取組を進めている。生野鉱山町は国の重要文化的景観にも選定され、鉱山町の情緒が色濃く残る町並みが地域を挙げて保存されている。JR 生野駅の建物は生野鉱山町や日本遺産の観光案内所として観光の入口として運営している。また「史跡生野銀山」は見学できる坑道としては西日本最大級の規模を誇り、多くの観光客を受け入れている。神子畑選鉱場跡は見学者を圧倒するスケール感で、音楽グループの PV 撮影や写真映えするスポットとして近年見学者が増加している。令和 2 年に鉱石の道神子畑交流館「神選」がオープンし、日本遺産の神子畑エリアの観光施設として活用している。

養父市は日本遺産「播但貫く、銀の馬車道 鉱石の道」のストーリーの終着点である。明延鉱山町、中瀬鉱山町には多くの鉱山に関わる産業遺産があり、地域の活性化に活用している。明延には養父市立あけのべ自然学校があり、県内の多くの小学生が鉱山稼働時のままの姿を伝える坑道を見学して鉱山の歴史だけでなく、かつて日本の経済発展を支えた鉱山の営みが学習できる。地域住民や行政等の協働で整備された一円電車明延線では、明延鉱山明神電車のひとつ「客車くろがね」が平成 22 年から復活運行している。令和元年には軌道が延伸され周回コースとなり、定期的に体験乗車会を開催して明延鉱山の新しい観光資源になっている。

以上のように日本遺産「播但貫く、銀の馬車道 鉱石の道」の沿線各エリアでは、地域の構成文化財等を活用しながら地域活性化の創意工夫をこらした取組が進められている。コロナ禍の中で誘客の仕組みや施設を整備しながら観光人口の復活に備えているという現状もあるが、この 6 年間の取組を通じて、兵庫県、沿線 6 市町で日本遺産を活かした地域活性化の取組を前進させてきた。日本遺産「播但貫く、銀の馬車道 鉱石の道」の強みは、各地域が行っている魅力ある取組を一体的に PR することによる相乗効果が期待できることや、近隣市町であることを活かした広域のイベント、周遊イベントの実施など、ひとつのストーリーとして連携できる基盤があることである。今後は、日本遺産の活用をさらなる地域の活性化につながるよう、次の 3 つの柱に基づき、それぞれのエリアの取組を発展的に継続して地域の魅力に磨きをかけながら、一本の「道」をたどるというストーリーを通してさらに連携を強化していく。そして、「鉱物資源大国日本の記憶」を観光資源として、多様なアプローチにより体感できるよう取組を強化していく。

1 ヘリテージとしてのレベルアップ

「銀の馬車道・鉱石の道」沿線のストーリーを体験・理解できる場となる観光スポット

ト等拠点の整備、歴史的な資料の整理活用等を行うことで、ヘリテージとしてのレベルアップを図る。

(1) 来訪者への「見える化」の推進

「銀の馬車道・鉱石の道」を辿る 73 kmの道程では、目に見えて往時を偲ばせる歴史遺産や観光資源が少ないことから、構成文化財の磨き上げの実施とともに、更なる知名度の向上、誘客促進に繋げるため、「見て、触れて、楽しむ」取組による「見える化」を推進する。設置済の看板・馬車模型等の改修や新設、ドローンで道を上空から見せる工夫、AR技術・VR技術による馬車道や町並みの再現などによる「見える化」を図る。また、「見える化」には、本来の歴史が持つ価値を普遍化することが不可欠であるため、歴史的な町並みを再発見し、古民家の活用など地域単位の整備や活用を推進することで地域固有の魅力を高めるとともに、継続的な関連資料の整理・収集・保存、さらには「銀の馬車道・鉱石の道」とは何かを伝える歴史講話の実施など、歴史を地域で語り継ぐ取組により、地域遺産としての価値の向上・レベルアップを図る。

(2) インバウンドに向けた環境整備

コロナ禍の影響により、現在、訪日外国人旅行者が大幅に減少しているが、今後も大きなマーケットと期待される訪日外国人旅行者に的確な対応をするための環境整備を図る。多言語化の推進、訪日外国人旅行者向け商品の開発、外国人に対応できるガイドの育成など、インバウンドマーケットの回復を見据えたハード・ソフト両面での整備を図る。

2 地域の「銀の馬車道・鉱石の道」愛の醸成

地域住民の「銀の馬車道 鉱石の道」のストーリーや構成文化財に対する理解を通じて、地域への愛着や誇りの醸成を図る。また、観光客などの来訪者に対し、中播磨地域・但馬地域について語れる地域観光の担い手育成を図る。

(1) シビックプライドの形成

幅広い世代への「銀の馬車道・鉱石の道」に対する誇り、愛着を高めることにより、地域住民のボランティア活動や住民同士のコミュニケーション等を活発化させ、観光まちづくりに繋げるとともに、地域への定着を促進する。地域外からの観光誘客を図るためには、地域住民が地域に愛着を持ち、住民であることに誇りを持つことが重要である。「銀の馬車道」エリアと「鉱石の道」エリアとの人的交流を通じた観光ボランティアガイドの育成など、観光人材育成プログラムの構築に取り組む。また、日本遺産のストーリーや構成要素を次世代に引き継いでいくために、小中高生向けの日本遺産講座の実施などにより、シビックプライドの形成を図る。

(2) 地域外の人々との交流・連携

「銀の馬車道・鉱石の道」関係者や地域住民が、他の日本遺産認定団体や地域住民との交流を通じて、互いの歴史的価値や活動内容等を情報共有することで、「銀の馬車道・鉱石の道」への更なる理解と誇りの醸成を図る。これまで、地域外、特に他の日本遺産認定団体や地域住民とのコミュニケーションや結びつきが少なかった反省を踏まえ、積極的に他の日本遺産認定地域の現状を見聞し課題等を知ることで、当地域での課題解決策を検討する。また、改めて当該地域の魅力を再認識・再発見することにより、地元への愛着＝「銀の馬車道・鉱石の道」愛の醸成を図る。

3 地域外からの誘客増加を目指した取組の推進

「銀の馬車道・鉱石の道」沿線地域のイメージ・魅力等を高める取組みや、地域資源を活用したイベント等の実施により、兵庫県内、近畿地方をはじめ、全国、海外への誘客を図り、地域や地域経済の振興を目指す。

(1) ブランド化の推進

「食・グルメ」や「名産・みやげ」「イベント」「サービス」等で「銀の馬車道・鉱石の道」の冠や、各種ロゴマーク・デザイン等の普及により、沿線地域内外への認知度向上・ブランド化を推進する。ブランド化の推進では、全ての商品・サービス等に共通のイメージを植え付けることが重要であり、その上で「食・グルメ」や「サービス」など、現地でしか味わえない食材・料理や体験は、ブランド価値向上に大きく寄与する。一方、「名産・みやげ」は通信販売・ネット販売等の手法があるものの、他と同様に現地でしか手に入らない商品・サービスの構築により、来訪者増加への一助とする。来訪者を飽きさせない新たなキャラクター・商品・料理・サービスの継続的な開発とイメージの共通化を通じて、ブランドイメージの形成を図る。

(2) 体験・体感できるイベントの開催

「銀の馬車道・鉱石の道」の歴史や文化等を体感するイベントを開催する。コロナ禍においてリアルイベント開催が困難な状況であるが、魅力的な地域で歴史や文化を体感したいという来訪者の欲求は常に尽きることは無い。そのような地域に選ばれらるきっかけづくりとして、リモート開催や人数制限によるリアル開催など、可能な範囲・条件下での体感の場づくりを図るとともに、ウィズコロナによる通常人数、広範囲から誘客を促すイベント開催を検討し、リピート来訪者の囲い込み及び新たなファン層の拡大を図る。

(3) 来訪者の満足度を向上させる受入環境の整備・支援

観光案内所、宿泊施設、飲食店・土産店等において、旅行者の満足度を高める受入体制の整備を実施するとともに、回遊性・滞留性・拠点性の強化や、来訪者のリピート率向上を図る。観光客の満足度は、各施設の受入体制で大きく左右される。また、一つひとつの拠点の充実度・特化性も施設自体のイメージや来訪者へのおもてなし等の満足度を決める重要なファクターであることから、ソフト・ハード面での継続的なサービス向上と、各拠点の充実により、点から線、線から面へと繋げていくことで、リピーターの増加を図る。また、来訪者が朝や夜に楽しめるなど、興味関心のある体験メニュー等を開発することで当該地域への長時間滞在の可能性を高める。

(4) 戦略的プロモーション

戦略的なプロモーションとして、今後とも話題性・独自性を高めて国内外へ積極的にPRしていく。例えば、ゆかりのあるフランス人技術者とのストーリーを活かした海外プロモーションの実施など、「銀の馬車道・鉱石の道」ならではの魅力を積極的に発信する。また、情報拡散力やリアルタイム性が高いSNSでのプロモーションを主軸としたWebでの情報発信を推進しつつ、既存メディアも活用するなど、様々な媒体によるプロモーションを図る。

(4) 実施体制

□日本遺産「銀の馬車道・鉱石の道」推進協議会（企画・実施・進捗管理）

- 会 長：鉱石の道推進協議会会長
- 副会長：姫路市長、朝来市長、銀の馬車道ネットワーク協議会会長
- 監 事：養父市長、神姫バス株式会社代表取締役社長
- 事務局：兵庫県中播磨県民センター、兵庫県但馬県民局

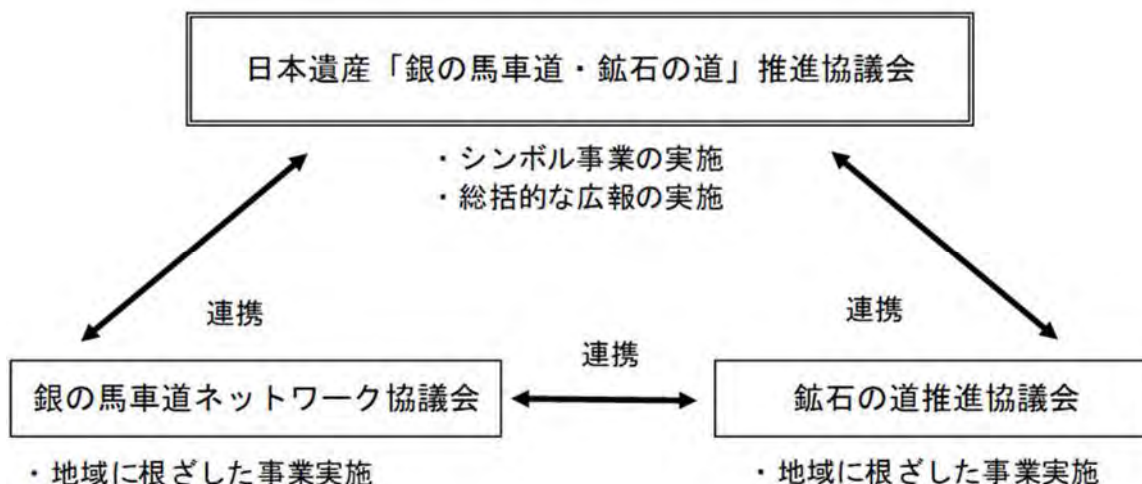
【構成団体】

- 姫路市、福崎町、市川町、神河町、朝来市、養父市
- 兵庫県中播磨県民センター、兵庫県但馬県民局
- 銀の馬車道ネットワーク協議会
 - ・姫路市・福崎町・市川町・神河町・朝来市に所在する企業、地元商工会、観光協会など 51 団体で構成
- 鉱石の道推進協議会
 - ・養父市・朝来市に所在する企業、地元商工会、観光協会など 20 団体で構成
- 神姫バス株式会社（地域 DMC 事業者）
 - ・マーケティング調査や周辺観光地等の分析、アクションプランの作成
- 株式会社神戸新聞社
 - ・新聞への積極的な掲載
- 但陽信用金庫
 - ・金融機関の立場での意見・提案、所有施設の貸与

【推進体制】

- 日本遺産「銀の馬車道・鉱石の道」推進協議会
 - ・シンボル事業の実施
 - ・総括的な広報の実施
- 銀の馬車道ネットワーク協議会、鉱石の道推進協議会
 - ・地域に根ざした事業の実施

【推進体制の概略図】



[人材育成・確保の方針]

次世代を担う子どもたちが地域に誇りと愛着を持ち、将来にわたって日本遺産の取組みに参画していくため、日本遺産構成市町の全中学1年生と一部の小学4年生に対して、学習教材となる副読本等の配付、「鉱石の道」エリアでの小中高等学校を対象とした郷土学習活動を支援、高校生ならではのアイデアを観光施策や地域課題解決に活かすため、地元高校生による地域魅力づくりワークショップの実施など、若者への地域愛醸成を図っており、継続したふるさと教育を実施する。

また、芸術文化観光専門職大学の臨地実務実習を兵庫県中播磨県民センター及び但馬県民局で受入れることにより、「銀の馬車道・鉱石の道」における取組みの視察や活動への関与などにより、次世代育成を図る。

さらに、地域住民等を対象とした歴史講話等を継続し、「銀の馬車道・鉱石の道」に関連する取組みへの参加意欲を高めていく。

(5) 日本遺産の取組を行う組織の自立・自走

日本遺産「銀の馬車道・鉱石の道」推進協議会は、「銀の馬車道・鉱石の道」沿線6市町及び兵庫県中播磨県民センター・但馬県民局が事務局として参画し、シンボル事業や総括的な広報など、広域的な事業展開を実施している。また、「銀の馬車道」と「鉱石の道」の各エリアでは「銀の馬車道ネットワーク協議会」と「鉱石の道推進協議会」を構成し、地域に根ざした事業展開を実施している。各協議会では、構成員として地域団体や地元企業、地元商工会、観光協会なども参画するなど、官民一体の組織を形成している。

構成文化財所在地では、地域団体が主体となる観光ガイドが活動し、地域イベントが開催されるとともに、日本遺産に関連した商品を開発・販売している。また、「銀馬車かぼちゃ」ブランドを推進することにより、一部の飲食店では特別メニューの提供などで売上増にも貢献している。さらに、構成市町が構成文化財における施設整備や維持管理、活用に関する事業等の関係事業にふるさと納税を活用するなど、一部であるが民間資金を活用している。

今後、来訪者増・認知度向上していけば、クラウドファンディング等により、更なる民間資金を活用した取組みが可能となるため、来訪者を飽きさせない新たなキャラクター・商品・料理・サービスの継続的な開発とイメージの共通化を通じて、ブランドイメージの形成を図る。また、商品開発・販売の支援等の取組みを発展させながら、民間主体の取組みへと移行を促すとともに、各種観光情報をワンストップで提供し、事業収入等を自主財源で確保可能な観光・地域活性化プラットフォーム（DMO等）の設立を検討する。

当分の間は、沿線6市町及び兵庫県中播磨県民センター・但馬県民局からの負担金を活用し、継続的に事業を展開する。

(6) 構成文化財の保存と活用の好循環の創出に向けた取組

次世代を担う子どもたちが地域に誇りと愛着を持ち、将来にわたって日本遺産における地域全体で構成文化財を支え保存するなどの取組に参画していくため、日本遺産構成市町の全中学1年生と一部の小学4年生に対して、学習教材となる副読本等の配付、「鉱石の道」エリアでの小中高等学校を対象とした郷土学習活動を支援、高校生ならではのアイデアを観光施策や地域課題解決に活かすため、地元高校生による地域魅力づくりワークショップの実施など、若者への地域愛醸成を図っている。

また、一部の地域では「鉱山閉山とともに廃止された『一円電車』の保存と活用を通じて地域の賑わいづくりを推進するための活動資金」に寄附金を活用している。

さらに、一部の構成市町では「後世に残したい歴史文化遺産の保存活用関係事業」等にふるさと納税を活用するなど、構成文化財をはじめとする歴史文化資源の保存・活用を図っている。

これらの取組みを継続・発展させることにより、「銀の馬車道・鉱石の道」全体での構成文化財の保存と活用の好循環の創出を目指す。

(7) 地域活性化のために行う事業

(7) - 1 組織整備

(事業番号 1 - A)

事業名	事業の全体統括を行う組織の整備		
概要	計画の円滑な実施のため、関係者間の調整を行う組織の整備		
	取組名	取組内容	実施主体
①	日本遺産「銀の馬車道・ 鉱石の道」推進協議会 の運営	構成6市町（姫路市、福崎町、市川町、神河町、朝来市、養父市）のほか、兵庫県中播磨県民センター・但馬県民局、銀の馬車道ネットワーク協議会、鉱石の道推進協議会、神姫バス株式会社、株式会社神戸新聞社を構成員とする日本遺産「銀の馬車道・鉱石の道」推進協議会を運営する。	日本遺産「銀の馬車道・ 鉱石の道」推進 協議会
②	日本遺産「銀の馬車道・ 鉱石の道」推進協議 会総会の開催	日本遺産「銀の馬車道・鉱石の道」推進協議会構成員の役割及び財源や体制を明確にするため、構成員の代表による総会を開催する。	日本遺産「銀の馬車道・ 鉱石の道」推進 協議会
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2020	組織体制への行政組織以外の参画者数		4 団体
2021			4 団体
2022			4 団体
2023	組織体制への行政組織以外の参画者数		4 団体
2024	組織体制への行政組織以外の参画者数		4 団体
2025	組織体制への行政組織以外の参画者数		4 団体
事業費	2023年：200千円、2024年：200千円、2025年：200千円		
継続に向けた 事業設計	協議会運営による収益は発生しないため、自治体の支援を得て事業を継続する。		

(事業番号 1-B)

事業名	計画に基づく事業の企画・実施を行う組織の整備		
概要	計画に基づく事業を中心となって企画・実施する役割を担う組織の整備		
	取組名	取組内容	実施主体
①	日本遺産「銀の馬車道・鉱石の道」推進協議会幹事会・担当者会の設置	事業の具体的な企画を行い実施する組織として協議会の中に幹事会・担当者会を設置し定期的 に開催する。	日本遺産「銀の馬車道・鉱石の道」推進協議会
②	日本遺産「銀の馬車道・鉱石の道」推進協議会事務局の設置	協議会事務局を構成6市町（姫路市、福崎町、市川町、神河町、朝来市、養父市）、兵庫県中播磨県民センター・但馬県民局で組織し、広域的な事業を展開する。	日本遺産「銀の馬車道・鉱石の道」推進協議会
③	銀の馬車道ネットワーク協議会・鉱石の道推進協議会の運営	銀の馬車道ネットワーク協議会及び鉱石の道推進協議会を組織し、地域に根ざした事業を展開する。	銀の馬車道ネットワーク協議会・鉱石の道推進協議会
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2020	日本遺産「銀の馬車道・鉱石の道」推進協議会等 が企画・実施した事業の数		29 事業
2021			35 事業
2022			30 事業
2023	日本遺産「銀の馬車道・鉱石の道」推進協議会等 が企画・実施した事業の数		31 事業
2024	日本遺産「銀の馬車道・鉱石の道」推進協議会等 が企画・実施した事業の数		32 事業
2025	日本遺産「銀の馬車道・鉱石の道」推進協議会等 が企画・実施した事業の数		33 事業
事業費	2023年：790千円、2024年：790千円、2025年：790千円		
継続に向けた 事業設計	協議会運営による収益は発生しないため、自治体の支援を得て事業を 継続する。		

(事業番号2-A)

事業名	P D C Aサイクルをまわす仕組みの整備		
概要	目標値を設定し協議会において計測や共有を行うとともに、幹事会や担当者会で事業効果を検証し、次の取組みへ向け必要な改善を行う。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	各事業や計画の目標値について協議会で共有	計画案の策定、事業の実施及びその状況を把握するため、幹事会・担当者会を定期的に行い情報共有を行う。	日本遺産「銀の馬車道・鉢石の道」推進協議会
②	課題の特定や必要な対応について協議	計画の実施にあたり、生じる課題の特定や対応を幹事会・担当者会において協議するとともに、会長や日本遺産プロデューサー等から必要な助言を受ける。	日本遺産「銀の馬車道・鉢石の道」推進協議会
③	事業効果の検証	概ね1年間の事業について、総会や幹事会、担当者会で効果検証を行い、課題の改善に向けた提言を行う。	日本遺産「銀の馬車道・鉢石の道」推進協議会
④	課題解決に向けた事業実施	検証結果や助言を基に協議会で計画を精査し、課題解決に向けた具体的な改善策を策定し事業実施を行う。	日本遺産「銀の馬車道・鉢石の道」推進協議会
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2020	総会、幹事会、担当者会の開催回数		18回
2021			18回
2022			17回
2023	総会、幹事会、担当者会の開催回数		18回
2024	総会、幹事会、担当者会の開催回数		18回
2025	総会、幹事会、担当者会の開催回数		18回
事業費	2023年：790千円、2024年：790千円、2025年：790千円		
継続に向けた事業設計	協議会運営による収益は発生しないため、自治体の支援を得て事業を継続する。		

(7) - 3 人材育成

(事業番号 3 - A)

事業名	日本遺産を活用する人材・事業者の育成・確保		
概要	日本遺産を活用した事業等に主体的に取り組む人材・事業者を育成・掘り起こしする。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	観光ガイドの育成	日本遺産の構成文化財やストーリーを紹介する観光ガイドのスキルアップ研修等を実施する。また、公式ホームページにてガイド団体を紹介し、併せて予約ができる体制を構築(又は予約ができる連絡先へ誘導)する。	日本遺産「銀の馬車道・鉱石の道」推進協議会
②	日本遺産認定団体とのネットワーク構築	他の日本遺産認定団体や地域団体と連携するため、ネットワークの構築・交流により、改めて「銀の馬車道・鉱石の道」の魅力を再確認・再発見することで、地域愛の醸成を図り、人材の育成・確保に繋げる。	日本遺産「銀の馬車道・鉱石の道」推進協議会
③	日本遺産を活用した新規事業等への支援	日本遺産を活用したイベント、商品開発等の事業展開する人材・事業者を支援する。	日本遺産「銀の馬車道・鉱石の道」推進協議会
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2020	日本遺産を活用する事業者等の数		39 団体
2021			39 団体
2022			40 団体
2023	日本遺産を活用する事業者等の数		41 団体
2024	日本遺産を活用する事業者等の数		42 団体
2025	日本遺産を活用する事業者等の数		43 団体
事業費	2023年：8,000千円、2024年：8,000千円、2025年：8,000千円		
継続に向けた事業設計	観光ガイドの活動や日本遺産を活用した事業展開により一部収益は発生するが、自治体の支援を得て事業を継続する。		

(7) - 4 整備

(事業番号4-A)

事業名	ストーリーを体験できる施設設備・サブストーリーの整備		
概要	ストーリーの体験に必要な解説等の充実のための施設設備やサブストーリーの整備		
	取組名	取組内容	実施主体
①	拠点施設の展示コーナーの整備・充実	姫路みなとミュージアム、市川町観光交流センター、銀の馬車道交流館、志村喬記念館、鉱石の道神子畑交流館・神選、中瀬金山関所等において、パネル展示等による解説の整備や町歩きガイドツアーなど取組みの充実を図る。	構成6市町、日本遺産「銀の馬車道・鉱石の道」推進協議会
②	設置看板の改修	平成30年度に作成したサイン計画に基づき、設置看板の改修を行う。	日本遺産「銀の馬車道・鉱石の道」推進協議会
③	サブストーリーの抽出	ゆかりのあるフランス人技術者とのストーリーを活かした海外プロモーションの実施や、構成文化財と周辺施設を関連付けた歴史を掘り起こし、魅力的なストーリーを作成する。	日本遺産「銀の馬車道・鉱石の道」推進協議会
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2020			220基
2021	看板整備・改修数(累計)		224基
2022			226基
2023			228基
2024	看板整備・改修数(累計)		230基
2025	看板整備・改修数(累計)		232基
事業費	2023年: 3,500千円、2024年: 1,500千円、2025年: 1,500千円		
継続に向けた事業設計	収益は発生しないため、協議会構成団体の協力を得て事業を継続する。		

(7) - 5 観光事業化

(事業番号5-A)

事業名	日本遺産ストーリー関連コンテンツ・商品の販売
概要	日本遺産のストーリーに関連した体験コンテンツやオリジナル商品の開発・販売

	取組名	取組内容	実施主体
①	観光ガイドツアーの販売	構成文化財及び周辺の町歩きガイドツアーを実施し、「銀の馬車道・鉱石の道」のストーリーを理解してもらう。なお、取組みでは日本遺産の構成文化財やストーリーを紹介する観光ガイドのスキルアップ研修等を実施する。	日本遺産「銀の馬車道・鉱石の道」推進協議会
②	体験コンテンツの販売	JR 西日本と連携したサイクルトレインの運行や、旧鉱山を体験する探検坑道など、日本遺産のストーリーを体験するコンテンツを販売・実施する。	日本遺産「銀の馬車道・鉱石の道」推進協議会
③	ストーリー関連商品の販売	「銀馬車かぼちゃ」ブランドを推進し、飲食店での特典メニューや、日本遺産のイメージを活用したオリジナル商品の開発・販売を支援する。	日本遺産「銀の馬車道・鉱石の道」推進協議会

年度	事業評価指標	実績値・目標値
2020	各体験・商品の売上	106,616,868円
2021		113,909,337円
2022		112,871,589円(1月末)
2023	各体験・商品の売上	127,200,000円
2024	各体験・商品の売上	139,900,000円
2025	各体験・商品の売上	153,800,000円

事業費	2023年：7,000千円、2024年：7,000千円、2025年：7,000千円
継続に向けた事業設計	体験コンテンツやオリジナル商品の販売により一部収益は発生するが、自治体の支援を得て事業を継続する。 ※設定根拠：(2) 地域活性化計画における目標の「指標③-A：日本遺産関連商品等の販売額」の指標と同一。

(7) - 6 普及啓発

(事業番号6-A)

事業名	学校教育との連携		
概要	地域の児童生徒が、日本遺産のストーリーを理解し誇りに思えるように学校教育と連携し、日本遺産に触れる機会を提供		
	取組名	取組内容	実施主体
①	出前授業・講座の開催	構成市町の小中高校の児童生徒に日本遺産のストーリーや構成文化財に関する出前授業・講座を開催する。	構成6市町
②	日本遺産に関連する教材の配布・活用	次世代を担う子どもたちが地域に誇りと愛着を持ち、将来にわたって日本遺産の取組みに参画していくため、日本遺産構成市町の全中学1年生と一部の小学4年生に対して、学習教材となる副読本等を配付し授業を通じて活用する。	日本遺産「銀の馬車道・鉢石の道」推進協議会
③	高校生ワークショップの実施	高校生ならではのアイデアを観光施策や地域課題解決に活かすため、地元高校生による地域魅力づくりワークショップの実施により、地域愛醸成を図る。	日本遺産「銀の馬車道・鉢石の道」推進協議会
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2020	日本遺産に関連する教材の配布数		6,089部
2021			5,979部
2022			5,849部
2023	日本遺産に関連する教材の配布数		5,700部
2024	日本遺産に関連する教材の配布数		5,600部
2025	日本遺産に関連する教材の配布数		5,500部
事業費	2023年：1,500千円、2024年：1,500千円、2025年：1,500千円		
継続に向けた事業設計	収益は発生しないため、協議会構成団体の協力を得て事業を継続する。 ※少子化により配布対象者減		

(7) - 7 情報編集・発信

(事業番号7-A)

事業名	HP 等における情報発信		
概要	日本遺産のストーリーや構成文化財に関する情報、及び来訪者が求める情報を取得するためのHP等を整備		
	取組名	取組内容	実施主体
①	公式HP及びSNSによる情報発信	日本遺産「銀の馬車道・鉱石の道」公式HPでは、現在、ストーリーや構成文化財の紹介、モデルルート等を掲載している。今後は各市町観光協会等関係団体及び周辺施設HPとの相互リンクや、SNSと連動したイベント情報・取組みの掲載を実施する。	構成6市町、日本遺産「銀の馬車道・鉱石の道」推進協議会
②	ガイドムービーの制作・活用	構成文化財に関するガイドムービーを制作し、YouTubeによる配信や現地案内板に誘導用のQRコードを貼付するなど活用する。	日本遺産「銀の馬車道・鉱石の道」推進協議会
③	マスメディアを活用した情報発信	テレビ、ラジオ、雑誌等を活用し、日本遺産のストーリーや構成文化財を紹介することにより、地域外からの誘客促進・認知度向上を図る。	日本遺産「銀の馬車道・鉱石の道」推進協議会
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2020	「銀の馬車道・鉱石の道」公式HPのPV数		154,294PV
2021			164,122PV
2022			141,553PV(1月末)
2023	「銀の馬車道・鉱石の道」公式HPのPV数		172,000PV
2024	「銀の馬車道・鉱石の道」公式HPのPV数		180,000PV
2025	「銀の馬車道・鉱石の道」公式HPのPV数		189,000PV
事業費	2023年：9,650千円、2024年：9,650千円、2025年：9,650千円		
継続に向けた事業設計	収益は発生しないため、協議会構成団体の協力を得て事業を継続する ※設定根拠：2021年度の値を基準とし、毎年約5%増を見込。		